第４期　第４回中原区区民会議

日時　平成25年３月19日（火）14：00～
場所　中原区役所５階　502・503会議室

1　開催日時　平成２５年３月１９日（火）午後２時００分～４時１９分
2　開催場所　中原区役所５階　５０２・５０３会議室
3　出席者
（委員）川連委員長、冨岡副委員長、板倉副委員長、青木委員、石井委員、伊藤委員、稲富委員、梅原委員、岡本委員、尾木委員、反町委員、但野委員、塚本委員、中森委員、中山委員、成田委員、橋本委員、橋本委員
（参与）潮田参与、押本参与、原参与、東参与、松川参与、吉岡参与、滝田参与
（事務局）板橋区長、小野副区長、岩瀬部長、風間部長、山崎所長、石津副所長、諏佐室長、木下所長、原課長、高岡課長、服部課長、綱島課長
企画課：川添課長、園田係長、倉見係長、橋本職員、深谷職員、野並職員
4　議　題　（１）第３回運営部会報告（公開）
（２）審議テーマ「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」に向けた取組について（公開）
①中原区における子育て支援について
②意見交換
（３）課題調査部会委員の選任（公開）
（４）「絆を深めて支え合う防災体制づくり」の取組について（公開）
（５）第４期区民会議中間報告書について（公開）
（６）平成２５年度中原区地域課題対応事業について（公開）
（７）平成２４年度区民会議交流会の報告について（公開）
5　傍聴者　３人
6　会議内容

午後２時　　開　会

1　開会
司会　皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから第４期の第４回中原区区民会議を開催いたします。
本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます副区長の小野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
本会議は過半数の委員が出席をしており、川崎市区民会議条例第６条第２項により、委員の半数以上の出席を得ていることから成立をしておりますことを御報告申し上げます。また、会議公開条例に基づきまして公開で行われます。そして、会議録を作成し、公開す

ることになりますので、御了承をいただきたいと思います。

本日、委員で寺岡委員、藤嶋委員につきましては、所用により欠席との御連絡をいただいているところでございます。また、参与で市古参与、大庭参与、川島参与、松原参与、日浦参与につきましては、所用により欠席の御連絡をいただいております。

それでは、中原区長の板橋より御挨拶を申し上げます。

区長　皆さん、こんにちは。区長の板橋でございます。中原区区民会議の第４期目も既に今回で４回目ということで、皆様方に非常に熱心な御討議をいただいていることに、まずは感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

今年度は中原区制40周年ということで、この間もいろいろなところで御挨拶させていただきましたけれども、先週、市民館でやりましたコンサート、あと日曜日にパンジーボールということで、法政大学トマホークスと富士通フロンティアーズという中原区にありますアメリカンフットボールチームの戦いがあって、区役所で計画をさせていただきました40周年記念事業につきましては滞りなく終わらせていただきました。この間、のど自慢や、あるいは市民ミュージカルを含めて、皆様方に御協力いただいたことにつきましても重ねて感謝申し上げたいと思っています。ありがとうございました。

私から今会議に当たりまして３つほどお話をさせていただきたいと思います。簡単にさせていただきますので、よろしくお願いしたいと思うんですが、１つは、今年度のテーマでもございました地域防災力の強化ということでございますが、先週の金曜日、この場所におきまして中原区防災連携協議会を発足させていただきました。この間、町内会、自主防の皆さん方には、既に地域防災という形でいろんな訓練も行っていただいています。もちろん商店街の皆さん方にも御協力をいただいてやらせていただいております。もう１つは、医療・救護ネットワーク会議といいまして、実は中原区は幸いなことに大きな病院が幾つかございまして、そういった拠点病院と地域との医療・救護をどのようにしたらいいかというものを、既に連携会議を発足する前に２回ほど開催させていただきまして、実質的な議論になっているところでございます。今後も福祉施設の部会や、あるいは輸送力を高めなければいけないということで輸送部会等、部会を幾つか設置させていただきまして、地域防災力の強化に努めてまいりたいと考えておりますので、また引き続き皆さん方の御協力をお願いしたいと考えております。

２つ目は子育ての関係でございますが、児童虐待防止条例が議会で成立し、今年の４月に施行となることもありまして、従来は児童相談所が専管事項だったのですけれども、児童相談所も手いっぱいになってまいりまして、軽いものという表現はいいのかわからないのですけれども、早期発見をして、なるべく重大に至る前のものを区役所で何とか解決しようということで組織改正をさせていただきまして、児童虐待について区役所でも取り組むということがこの４月から進みます。そういう意味でも、区役所の機能といいますか、重要性がますます増していくのだろうと思っています。早期の通報が一番大事なことだと

思っておりますので、また地域の皆様方からも、そういう意味での通報システムみたいなものの御協力も必要になろうかと考えております。

３つ目でございますが、小杉周辺の再開発の問題につきまして、これもことしの４月から区役所に、小杉だけという話ではないのですけれども、高層マンションを担当する職員を係長級で１名配置することになりました。今、行政改革という非常に厳しい状況の中、なかなか人はつかないような状態ですけれども、小杉の高層マンション、それから各地域でも大型マンションができていると思いますが、そういったマンションにお住まいの方と町内会との融和をどう進めていくかということで、これまでも地域振興課を中心として取り組んでまいったところでございますが、専任の職員をつけさせていただきまして、積極的に取り組んでまいりたいと思っています。また同時に、小杉の開発そのものの魅力も改めて探っていこうということで、等々力の改修事業もございますので、中原区の魅力ということも含めながら、今、幾つかの組織をつくっているところでございます。具体的な動きになりましたら、また改めて御紹介をさせていただきたいと思っております。

以上、３つほど御紹介させていただきましたけれども、区民会議の議論を受けて、幾つかその提言の実現をさせていただいておりますので、ぜひこれからも皆さん方の積極的な御提言をいただけることをお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

司会　それでは、続きまして事務局より本日の資料の確認をさせていただきます。事務局、よろしくお願いします。

事務局　それでは、本日配付しております資料を確認させていただきます。

まず、１枚目、本日の次第でございます。

おめくりいただきまして、別添１、席次表でございます。

続きまして、別添２、委員及び参与名簿でございます。

ここからは資料になります。

資料１、審議テーマ設定に至るまでの検討経過、Ａ３判のものでございます。

続きまして、資料２、中原区における子育て支援についてということで、こちらはＡ４判のもので、ホチキスどめをしております冊子でございます。

続きまして、資料３、「絆を深めて支え合う防災体制づくり」取組報告資料でございます。

続きまして、資料４、中原区区民会議中間報告書構成及び目次案でございます。

続きまして、資料５、平成25年度中原区地域課題対応事業計画一覧でございます。こちらはＡ３判で両面印刷となってございます。

続きまして、資料６、平成24年度区民会議交流会報告書の冊子でございます。こちらはＡ４判で、ホチキスで左２点どめとなっている冊子でございます。

ここからは参考資料でございます。参考資料１、第４期第３回中原区区民会議の会議録

でございます。こちらも冊子となっているものでございます。

続きまして、参考資料２、第３回中原区区民会議運営部会の会議録でございます。

続きまして、参考資料３、「地域における子育て応援体制づくり」アンケート結果報告書でございます。こちらは第３期の区民会議で取りまとめたものでございますが、冊子でございます。

続きまして、参考資料４、平成24年度中原区地域課題対応事業（総合的子ども支援事業）の一覧でございます。

最後に、参考資料５、第４期中原区区民会議スケジュールでございます。こちらはＡ３判の横のものでございます。

そのほか別冊で、中原区子育て支援推進事業10周年記念誌というカラーの冊子をつけさせていただいております。こちらは先月、２月に発行されたということで、子育て支援推進実行委員会から資料提供いただいているものでございますので、御参照いただければと思います。

配付しております資料は以上でございます。

司会　ただいまお手元の資料について確認をさせていただきましたが、資料の過不足等はいかがでしょうか。もし不足等がありましたらお申し出ください。よろしいでしょうか。

続きまして、委員の皆様に会議進行に当たりまして１点お願いがございます。事務局から御説明をさせていただきます。

事務局　事務局からお願いがございます。実は前回の区民会議におきまして、終了後、複数の委員の方から、ほかの委員の発言が聞き取りにくいという御指摘がございまして、調べましたら原因といたしましてマイクの音量の調整不足かなということで、今回の会議では前回よりちょっと大きな音が出るように調整いたしました。しかし、何せ機械物なので、そんなに効果があるとは思えませんから、この区民会議の議場が大きいということもありまして、皆様に協力していただきたいのは、マイクを使ってお話しなさるときに、今までより少しだけ大きな声で話していただくか、もしくはマイクをもう少し口のほうに近づけてお話ししていただければ、そういう不具合もないのかなと思っております。これも円滑な議事進行のためでございますので、委員の皆様の御協力をお願いしたいところでございます。

以上です。

司会　中原区役所は決して立派な施設ではございませんので、申し訳ございませんが、よろしく御協力をお願いしたいと存じます。

それでは、これからの進行は委員長にお任せしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

川連委員長　皆さん、こんにちは。ようやく春がやってきた感じがございます。私も15日、二ヶ領用水の桃の会の方から、川連さん、花が咲き始めましたよという連絡があった

ものですから、早速カメラを持って行ってきました。まだ花が少ないんですけれども、何しろメジロの多さにびっくりしました。ほかの花の写真を撮りたかったのですけれども、あまりにメジロがかわいくて、いっぱいいたものですから、夢中になってメジロの写真を撮ってまいりました。暖かくなりましたので、皆さんもこれからお出かけになったらいいと思います。

それでは、早速会議を進行させていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

２　会議録確認委員の選任

川連委員長　まず、会議録確認委員の選任をいたします。

前回が岡本委員と尾木委員にお願いいたしましたので、名簿の順番で恐縮ですが、今回は反町委員と但野委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。――では、よろしくお願いいたします。

それでは、議題の審議を進めてまいります。

３　議題

（１）第３回運営部会報告

川連委員長　まず初めに、第３回運営部会の報告を行います。２月20日に開催した運営部会では、第４期区民会議２つ目の審議テーマについて、前回会議の委員の皆様の御意見をもとに議論いたしました。その結果、２つ目の審議テーマとして、「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」とすることと決定いたしました。そこで、この決定に至った経過などの部会の詳細な内容について、運営部会副部会長である冨岡副委員長に報告をお願いしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

冨岡副委員長　それでは、２月20日に委員７名全員の出席で運営部会を開催いたしました。その御報告をさせていただきます。

第４期区民会議２つ目の審議テーマは、前回の全体会議で子育て支援とすることになりましたので、運営部会では具体的にどのような視点で子育て支援について議論していくかを検討いたしました。まず、中原区役所で取り組んでいる子育て支援策を確認するため、事務局から説明を受けました。本日も後ほど改めて事務局から説明してもらうことにしましたので、詳しい内容は省略いたしますが、説明を受ける中で、中原区は今年度10周年を迎えた子育てサロンという市内の他の区にはない特徴的な取り組みがあること、また、児童委員と区役所がうまく連携しながら事業を進めてきていることを確認いたしました。

こうした現状を踏まえ、区民会議として何をテーマに検討するかについて話し合いをいたしました。詳しい内容は資料１にまとめておりますが、主な意見を幾つか報告いたします。中原区の特徴的な取り組みである子育てサロンについては、１カ所当たり月１回の開

催であり、いつでも使える場所としては不足しているのではないか。中原区は核家族が多いという結果を見ると、一時的な子どもの預かりに対するニーズが多い、こうしたニーズを地域で解決できないだろうか。また、地域の子育て支援の担い手としては高齢者が考えられますが、体力的な問題もあり、難しいのが実情であるということ。また、高齢者については、子育て支援の視点で考えるのではなく、高齢者が子どもと遊べる環境をつくることで双方にとってよい環境を与えることができるのではないだろうか。また、区と連携して新たに始めたスーモ住宅展示場のママカフェでは、飲み物が有料でも入り切れないほどの人が集まる、そういう場があればあるほど人は集まる。また、こども文化センターをもっと活用できないだろうか。それから、中原区にとっては区民同士の交流がとても重要である、区民同士が知り合うことができるイベントを考えてみたい。また、支援している環境へ出てこられる保護者は問題ないが、出てこられない保護者が問題になると考えられるので、どうにかできないだろうか。

以上のような意見を踏まえて、運営部会としては、区民と地域をつなげる取り組みが大きなテーマになるという結論に至り、審議テーマとして「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」と決定いたしました。本日の区民会議では、このテーマ設定のもと、皆様の御意見を伺いたいと思っています。

その他の議題では、今回の会議から審議テーマが変更になることに伴い、課題調査部会委員を改選することが事務局から提案され、部会ではこれを了承いたしました。

また、昨年７月からこの３月末までの区民会議の取り組みを第４期中間報告書として取りまとめること及び報告書構成案について事務局から提案され、部会ではこれを了承いたしました。

以上の内容につきましては、参考資料２の第３回運営部会会議録に記録しておりますので、後ほど御参照ください。

第３回運営部会の報告は以上でございます。ありがとうございました。

川連委員長　ありがとうございました。ただいまの報告に御質問などがございましたら手を挙げてお知らせください。よろしいでしょうか。――ないようですので次に移ります。

（２）審議テーマ「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」に向けた取組について

①中原区における子育て支援について

川連委員長　次の審議テーマ「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」に向けた取組について審議をいたします。皆様との意見交換に先立ちまして、中原区における子育て支援の現状を確認しておきたいと思います。本日は事務局から説明をお願いしたいと思います。では、事務局、お願いいたします。

事務局　こども支援室の諏佐です。きょうは、どうぞよろしくお願いします。

それでは、私から中原区役所が進めている子育て支援について御報告させていただきま

す。私からのパワーポイントと報告の概要は、お手元に資料２としてお届けさせていただいておりますので、あわせて御参照ください。

〔パワーポイント上映〕

初めに、本市各区の人口ですが、全国の多くの自治体では、人口の減少、あるいは増加率の鈍化が進んでいるところです。ところが、川崎市におきましては、各区とも人口の増加が進んでいます。特に、中原区においては、企業が売却した工場やグラウンド、社宅の跡地などに大型の再開発ビルやマンションの建設が進んでおりまして、多くの若い世代を中心に転入が増加、人口・世帯数とも市内で最も多くなっています。中原区の人口規模ですが、県内には33の自治体がございますが、第７位の人口を擁する茅ヶ崎市とほぼ同規模です。この中原区の人口増は平成47年まで続く見込みです。

中原区の出生数は、ここ数年2700人弱で横ばいに推移しています。

19歳までの人口ですが、昭和の末から平成の初期にかけて、中原区でも出生数の減少が続いておりました。全国的に見れば現在もまだ少子化の傾向は続いているところです。ところが、中原区では現在の16歳、平成９年生まれを境に増加の傾向に転じています。この図で見ますと、現在の12歳から14歳の中学生の総数は5300人余、12年後に中学生になる０歳から２歳児の総数は7200人を超えています。子どもが増えてハッピーなことばかりではありません。例えば教育施設の整備など、さまざまな課題が指摘されています。

結婚の高齢化の分析では、男女とも適当な相手がいないこと、その他男性では経済的理由、女性ではキャリアアップなどの理由が挙げられています。母親の出産時の年齢ですが、婚姻年齢の高齢化に伴い、ピークは30代前半になっています。

平成22年に実施された国勢調査の結果を見ると、中原区において顕著な事項は、平均年齢は全市のうち最も低いこと。人口増加率が高いこと。４割弱の人が中原区に住んで５年以内。中原区は鉄道や道路の整備などが進み、生活の利便性もあることなどから、30歳代から40歳代の若い世代を中心とした大幅な人口の流入と集中により、生産年齢人口の割合が高くなっています。また、マンションなどの集合住宅が多いことから人口密度は極めて高くなっています。

中原区の未就学児１万4691人のうち、３歳を過ぎて幼稚園に通っている子は3513人で24％、保育園に通っている子は3137人で21％、その他・在宅で保護者と生活している子は8041人で55％になっています。幼稚園は３歳以上の子が通いますので、少し細かく年齢別に見てみます。

０歳、１歳、２歳の２割が保育園に通い、８割が在宅で親と過ごしています。

３歳を過ぎた子の半数は幼稚園に、３割の子は保育園に、ただ、４歳・５歳児の２割の子どもは幼稚園にも保育園にも通っていません。どうしているのか気になるところです。

お手元に参考資料３としてアンケート結果報告書をお届けしていますが、第３期区民会議では、「地域における子育て応援体制づくり」をテーマに審議を進める中で、子育て世

代の方々から直接考え方やニーズを伺うことを目的として、乳幼児健診に区役所にお越しになった保護者を対象に、区民会議の委員の皆様がアンケート調査を実施しました。乳幼児健診は対象者のほぼ100％が受診しますので、子育て世代の方々のおおよその傾向が明らかになっているものと考えています。このアンケート結果から見えてきたことを御報告します。

初めに、保護者の年齢を伺ったところ、先ほどの出生時の母親の年齢のところでも触れましたが、出産の高齢化から30歳代が７割を超えていました。

家族構成を見ますと、９割が親と子だけで生活している核家族で、いわゆるおばあちゃんの知恵のそばにいる家庭は少ないことがわかります。

保護者の就業状況を見ると、女性の社会進出を反映した共働き世帯は４割に達していることがわかります。子どもが３歳を過ぎて幼稚園に通うようになると共働き世帯の割合はさらに高くなります。

子育てに関して利用している施設は、アンケートの537の回収のうち複数回答を可としましたので、公園やこども文化センターなど子どもを連れていきやすい場所が上位を占めています。ただ、これらを利用しているとき、ほかの人との交流があるかどうか気になるところです。また、月齢により出かける場所に特徴がありますので、月齢別に見てみます。

３カ月児は自分では歩くことができませんので、保護者が抱っこしていける場所に出かけています。

１歳６カ月児は歩き始めていますので、子どもが動きやすい場所に出かけるようになります。

３歳児は図書館が利用施設の上位に入っていますが、絵本の読み聞かせがわかるようになっていることもあると思われます。

利用しているサービスを見ると、４割の方が子育てサロンやふれあい広場、認可保育園が行っている園庭開放や交流行事を利用していますが、ほぼ同数の200人を超える方、この棒グラフの一番下ですが、214人の方が無回答となっているのを見ると、利用していないのは知らないからではないかと分析しています。子育てサロンは、主に歩き始める前の乳幼児を対象に、区内の７つの社会福祉協議会が20の会場で、主任児童委員の皆様、民生委員・児童委員の皆様初め多くのボランティアの皆さんに支えられ開催され、ことしは事業実施10周年を迎えたところですが、どこも盛況で、参加者は口コミなどで増えています。この子育てサロンの様子は、先ほど紹介しました、こちらの記念誌を後ほどご覧いただきたいと思います。

子育てをする上で求めている情報を伺ったところ、子どもの健康に関する情報が最も多く、537人中430人で、回答者全体の８割の方が求めていました。また、子連れで外出する際に便利な情報は537人中393人で７割を上回り、一時預かり施設に関する情報が537人中

294人で５割を超えていました。

子育て情報の入手方法は、川崎市や中原区の広報誌のほか、口コミが多くなっています。そのほか川崎市や中原区のホームページを見ていることがわかりました。

相談できる人は必要かについては、「そう思う」という人が537人中520人で97％を占めており、ほとんどの保護者が子育てについて相談できる人を求めています。若い子育て世代が地域とのつながりも求めていることがわかります。

子育てに困ったときに相談できる人はいるかについては、「いる」が537人中514人で96％を占めました。

頼れる人や相談できる人が「いる」と96％の人が答えていますが、困ったときなどにすぐ来てくれますかの問いには、３割が「すぐには来てくれない」と答えています。子育てに孤立してしまう可能性があります。

さまざまな地域の人や団体と交流できる場があれば利用するかについては、「利用する」が537人中453人で84％を占めています。

交流の場であればよいこととしては、６割の方が「子育て相談」「読み聞かせ」「子ども向けの音楽」「昔遊び」と答えています。

そのほか自由記載欄の主な意見を見ると、「育児についての悩み事の相談をしたい」「情報交換のほか、愚痴も含めて聞いてほしい」「月齢に合わせた昔遊び等を教えてほしい」「２人目が生まれ、上の子への接し方を教えてほしい」「子どもを預かってくれる場所を知りたい」「仕事と家庭と育児の両立のアドバイスを受けたい」など多くの意見が寄せられました。

これらのアンケートから確認できたことですが、現在も区内の各地に大型のクレーンが立っていますし、計画中のプロジェクトも数多くありますが、区内の各地で大型の再開発事業やマンション建設が進んでいます。このことなどにより、若い子育て世代を中心に人口の増加が続いています。地元の出身者は少ない状況です。毎年2700人の子どもが生まれていますが、出産年齢の高齢化が進んでいます。子育て世代のほとんどが核家族で、プライバシー保護に重点が置かれた構造になっている住宅に住み、夫は夜遅くまで仕事などで帰ってきません。共働き世帯が増えていることなどから保育園の希望者は多くなっています。居住年数が短い方が多いことから、子育て世代の多くは地域の人とのつき合いが少なく、お友達や知り合いもいない人が多くなっています。また、困ったときにサポートしてくれる人がいない状況です。知らないまちで子育てに追われ、育児に孤立感、不安感を感じている保護者が多くなっています。また、虐待に至る人の増加が懸念されています。

国においては、昭和41年のひのえうまでの合計特殊出生率1.58、平成元年はそれを下回る1.57となりました。平成２年のいわゆる1.57ショックをきっかけに、国ぐるみでエンゼルプランの検討が開始され、平成15年９月には少子化対策基本法が施行、平成19年12月には、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略が少子化社会対策会議で決定され、平成22

年１月には少子化対策から子ども・子育て支援へと視点を移した子ども・子育てビジョンが閣議決定され、国での議論が深まってきました。

国では、こちらのパワーポイントに示した子育てをめぐる３つの課題を挙げ、解決を目指すことになりました。

まず、就学前の子どもは、同じ年齢ならば、親の就労状況の違いにかかわらず、質の高い幼児期の学校教育・保育を受けることが望まれていること。核家族化や高齢化、また地域での人間関係の希薄化などにより、家庭や地域での子育て力が低下していることを指摘。大都市部を中心に保育所に入ることができない待機児童が増加する一方、子どもが減少している地域では、近くに保育の場がなくなったという地域もございます。

国では、課題の解決に向け、平成24年８月に成立した、いわゆる子ども・子育て関連３法に基づく制度を進めるべく、内閣府に子ども・子育て支援新制度施行準備室を設置しました。平成27年４月の消費税率引き上げによる財源の確保を前提にはしていますが、質の高い幼児期の学校教育・保育を総合的に提供の項目では、例えば同じ４歳・５歳児でも、文部科学省所管の幼稚園に通う子と厚生労働省所管の保育園に通う子がいますが、制度の違いによる不公平感を解消するため、幼稚園と保育所の良さをあわせ持つ認定こども園の普及を進めるとしています。地域の子育ての一層の充実では、全ての家庭を対象に、親子が交流できる拠点を増やすなど、地域ニーズに応じた多様な子育て支援を充実させるため、財政支援を強化するとしています。そのほか、市町村が保育所待機児童の解消を進めることに国が支援したり、新たに少人数の子どもを預かる保育などへの財政支援を行うとしています。また、川崎市には当てはまりませんが、子どもが減少している地域では保育機能の確保も考えられています。

これら国の取り組みを受けた本市の対応ですが、こども本部で子ども・子育て関連３法への対応として、平成25年度当初予算に子ども・子育て支援制度準備経費として1953万6000円を計上、法では市町村は任意設置とされていますが、川崎市に子ども・子育て会議を設置するとともに、子ども・子育て支援事業計画等のニーズ調査と計画（案）の策定準備を開始するとしています。

次に、子ども・子育て支援に関連して、地域のさまざまな課題を踏まえた中原区役所の取り組みについて説明させていただきます。

初めに、連携の分野では、地域の関係機関との連携の強化、個人別の支援の分野では、妊娠中から18歳までの子どもと子育て世代への個人別の支援、子育てをうまく進めるための地域での交流の場の確保、子育てを支援するための人材の育成と確保、子どもと子育て世代のニーズに的確に対応した情報発信、育児力向上のためのさまざまな事業を実施することで、地域全体で子育て世代を支援し、子育て世代の育児力の向上を図っていきます。

次に、これら６つの体系について、それぞれの内容を説明します。また、予算を伴う事業につきましては、お手元の参考資料４を後ほど御参照ください。

初めに、地域の関係機関との連携の強化ですが、子育てネットワークは未就学児を対象、子ども支援ネットワークは小学生から高校生を対象としています。それぞれのネットワークでは、区役所と区内で活動している各種団体や機関、子育て中の当事者が連携し、子育て支援を進めているものです。ネットワーク会議の開催、子ネット通信の隔月発行、子育て自主グループの支援、コンサートの開催、子ども未来フェスタの開催、こども文化センターでの親子講座の開催、夏休みものづくり体験、ボランティア対象の研修会の開催などを行っています。幼稚園・保育園・小学校連携会議は、子どもの育ちを支える関係機関の指導者が連携していくために開催しているもの、要保護児童対策地域協議会は、何らかの課題のある児童について関係の専門機関が連携してカンファレンスしていくために設置しているものです。

妊娠中からの個人別の支援ですが、さまざまな子ども相談に対応するほか、母子手帳の交付に当たっては丁寧な全員面接を実施、出生後、赤ちゃんが落ちついたころに保健師などの看護職員が行う新生児訪問、地域の民生委員・児童委員などの赤ちゃん訪問員が行うこんにちは赤ちゃん訪問を実施しています。区内の赤ちゃんはどちらかの訪問を必ず受けています。育児不安、障害、虐待などの要支援者への訪問も行っています。妊娠中に市外から転居してきた方には、川崎市で行っている支援情報を提供するとともに、妊婦健診に係る費用の補助券を差し上げています。また、保育園への入所相談も随時行っています。

地域での交流の場の確保ですが、子どもとその保護者が安全に過ごすことができる場所を確保するため、初めに、子育て支援事業の実施では、区役所窓口などで子ども・子育て相談に応じるほか、各種講座の実施、コンサートの開催、子育てグループへの支援、発達の課題がある子どもとその保護者への支援、子ども未来フェスタなど、さまざまな事業を実施しています。

次に、地域での子育て世代への支援では、区内16カ所20の会場で、地域のボランティアの皆様の協力により実施している子育てサロンの運営や、自主サロンである子育てふれあい広場の運営を補助することにより、友達づくりや地域との交流、季節の行事に地域ぐるみで取り組み、子どもと子育て世代の孤立化を防いでいます。

ちなみに、今年度は子育てサロンの運営実施を初めとする地域に根差した子育て支援を行ってきた子育て支援事業が10周年を迎え、先ほど紹介した記念誌の発行や記念事業を実施してきたところです。

区内には子育てを支えるさまざまな公的施設があります。区役所が施設を適切に運営管理していくことは当然のことですが、多くの子育て世代の利用を促していくためには、各施設に勤務している職員の専門性の活用、例えば公立保育園では、園庭開放や歩き始める前の子どもに保育室を開放したハイハイ広場を開設していますが、保育士が保育相談に応じたり、看護師が健康について相談に応じています。また、栄養士が離乳食や幼児食のつくり方などについてお話を行っておりまして、子育て世代を地域が見守り支援しているこ

とを実感していただけるように努めているところです。

子育て世代は、地域に子どもを連れていけて、自分自身もほっとできる場所を求めています。今井上町にあるリクルート社が運営しているスーモ住宅展示場のセンターハウスを無料でお借りすることができましたので、地域のボランティアの皆さんに協力をいただき、お菓子と飲み物はしいの実会から人を出していただいて、ママカフェを昨年11月から毎月第３金曜日に開催していますが、毎回多くの親子でにぎわっています。今後、ここも含め、さらなる場所の確保について要望をいただいているところです。

子育て支援のボランティアはまだまだ十分ではありませんので、子育てを一段落した方で地域貢献を考える方を対象に子育て支援者養成講座を開催しています。本年度は子育て支援に関心のある方を対象にした２日間で全４コマの入門講座、入門講座を修了した方や実際にボランティア活動を行っている方々を対象にした２日間で全４コマのステップアップ講座、さらに子育て支援者の質の向上のためのフォローアップ講座を開催するほか、現在各地区で活動しているボランティアの方々を一堂に会したスタッフ研修を実施しましたところ、160人を超える方々に受講していただきました。

さまざまな子ども・子育て情報が必要な人に確実に届くよう、子育てガイドブックを毎年更新発行するとともに、区内の各所で実施している関連事業やイベントも案内している子ネット通信を隔月で年６回発行、川崎市と中原区の両方のホームページからアクセスできる子育て応援ナビを随時更新しています。また、３カ月児、１歳６カ月児、３歳児対象の乳幼児健診は、対象者のほぼ100％が区役所に来ていただけますので、健診の待合室で資料を配布するとともに、子育てサロンなどを紹介しているＤＶＤを上映しています。

区役所では、育児力の向上を図るため、未就学児とその保護者を対象とした子育てネットワークや、小学生から高校生までを対象とした子ども支援ネットワーク事業を展開するほか、健診事業、各種の相談事業、子育て講座や講演会を企画開催、妊娠中の方を対象にした両親学級や、平日にはどうしても時間がとれない方のためにはワーキングマザー講座を開催、そのほか離乳食、幼児食教室、コンサート、子ども未来フェスタなど、さまざまな事業を実施しています。

ミミケロはっぴいダンスは、第３期区民会議で行ったアンケートで多くの保護者が子どもの健康に関心を持っていることがわかったため、新たに制作に取り組んでいるものです。子育てネットワークのメンバーが歌詞や曲、体操のイメージを出し合い、元体操のお兄さんで、現在は「幼い心をいつまでも」をテーマに、宮前区にある日本遊育研究所を主宰し、大妻女子大学の教授も務めていらっしゃる瀬戸口清文先生に全体の監修をお願いし、歌はファミリーソングシンガーの山野さと子さんにお願いしました。歌とダンスは保育園や地域子育て支援センターを初め、子育てサロンで大切にしていくことを考えています。

これまでも区役所が地域における子ども・子育て支援の総合的拠点として機能してきま

したが、先ほど区長からも紹介がありましたが、昨年10月に制定された川崎市子どもを虐待から守る条例の規定を受けた区役所のさらなる体制の強化を図るため、平成25年度からは区役所の体制として、こども支援室の機能を強化するほか、子ども及びその家庭への個別の専門的な支援を総合的に提供できる体制を整備するため、児童家庭課を新設します。

最後に、今後の総合的な子ども・子育て支援の展開についてですが、区役所や地域における子ども支援の拠点として、中原区の実情に合わせた総合的な子ども・子育て支援を推進するために、保育環境の整備や総合的な学校教育の推進など、さまざまな事業を実施展開してまいります。

御清聴ありがとうございました。

②意見交換

川連委員長　どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様と本テーマに関する意見交換に入りたいと思います。ただいまの事務局からの説明も踏まえながら、この審議テーマに関して、中原区としての課題や課題解決に向けた方策に関して御意見を伺いたいと思います。ただいまの説明に対する御質問でも構いませんので、委員の皆様の御発言をお願いいたします。どなたでも結構ですので挙手をお願いしたいと思います。――ないようですので、それでは私から御指名させていただきますけれども、よろしいでしょうか。

まず、石井委員、お願いいたします。

石井委員　私は、10年間たったわけですが、子育てサロンの立ち上げから５～６年、玉川地区の社会福祉協議会にかかわっておりましたので、最初から準備を全て社協の役員と一緒にやった記憶があるんですね。当初、社会福祉協議会から予算が来まして、まず立て看板をつくったり、あるいは音楽を鳴らすものとか、もちろんＣＤを買ったり、絵本を買ったり、子どもが喜ぶようなおもちゃを買ったり、そういったことで準備をいたしまして、社協の予算をそれに使わせていただいたんですけれども、こんなに準備しても果たして親子が来るんだろうかという心配も当初したんですが、心配は全然なく、開始早々から乳母車を引いてお母さん方が三々五々集まってこられまして、会場がいっぱいになるぐらい集まったわけですね。集まるとお母さん同士が携帯でお互いの番号を読み取って、お母さんのコミュニケーションがそれで図られているわけで、それからあそこへ行きましょうとか、そういった相談はお互いやっておりました。だから、本当にやってよかったという記憶があるんです。

ただ、やはり会場の確保が困難でございまして、もちろん会場費もかかるんですけれども、長くそこを使っていますと、どうしても貸す側にしてみると、終わった後、掃除が足らないと。町内会館とか社務所とかでしたから、そういう苦情が来まして、社協の役員が間へ入って、ちょっと困ったなということがございました。

それから、ＰＲについてです。さっきちょっとＰＲが足らない、知らない親子がいるの

ではないかという統計が出ていましたけれども、私の町内会では、社協でつくった子育てサロンの場所とか時間とかを書いたものを、町内会の掲示板へ常時張ってもらうように各町内会へお願いして、そのポスターをパウチして、１年中それを張ってもらうというふうにしております。今、10年たったということで感慨無量なところがあるわけです。

以上です。

川連委員長　ありがとうございました。石井委員のところは本当によくやっていらっしゃるんですね。先ほども行政の説明の中で、皆さんが欲しがっているのは触れ合いができる場所ですよね。そういう場所を皆さんが望んでいるというのがよくわかりました。

それでは、梅原委員、いかがでしょうか。

梅原委員　今の説明を見まして、保護者の就業状況というのがありますけれども、共働きが圧倒的に多いというのはびっくりしましたね。昔、例えば子どもがいて、お母さんはどうしていますかというときに、働かなければいけないのかなという話があって、いや、お母さんは余り外に出なくて、家にしっかりいるだけで価値がある、子どもをきちんと教育するのは大切なんだという話があったのですけれども、これを見ると共働きの比率が非常に高くて、親がいないわけですから、そうすると、子どもの教育を誰がやるのだろうかという疑問が出てくるわけです。その辺で子ども支援が非常に大事ではないかなという感じがいたします。

川連委員長　ありがとうございました。

では、但野委員、いかがでしょうか。

但野委員　但野です。さまざまな御報告をいただきまして、中原区のこども支援室を中心にさまざまな活動をしていらして、社協の方ですとか民生委員の方々のバックアップのもと、すごくいい活動をたくさんしていらっしゃるという印象を受けました。

また、こども支援室でも、先ほど資料に出ておりましたサポート側の研修ですとか、そういったことも実践を交えた上で提供していらっしゃるところがすばらしいと思っております。

また、子育てサロンにたくさんのお母さんたちが集まられている。高層マンションであるとか高いところに住んでいらっしゃいますと、そこからまず下におりてくることが第一段階で難しいということも聞いております。ただ、今の若いお母さんたちというのはすごく行動的な方が多くて、ここにも出ていましたけれども、積極的に情報集めする方は、とても遠くのサロンまで出かけていらっしゃって、大盛況だというお話も聞いています。そういった中、なかなか出てこられない方を対象にというのは、本当にそうだな、そのあたりのところがとても大事なのかなと思いました。

また、要保護世帯ですか、そちらのほうのサポートなんかも、生活格差が大きくなっているところもあるのかなという思いもありまして、そういった方々も余り気にせず、子どもたちが同じ世代ということで、楽しくお話しできる場が広がればいいなと思っておりま

す。

川連委員長　ありがとうございました。

　それでは、成田委員、お願いします。

成田委員　私は中原区の子育てネットワークからこちらの会議に出させていただいておりまして、もともとネットワーク会議へも、母体としましては中原区の主任児童委員部会から選出させていただいて入っております。先ほどからお話がありましたように、中原区の子育てサロンはことし10周年を迎えまして、そのときに０歳だったお子さんが小学校４年生になっているということで、立ち上げのころに御苦労なさった皆様方の成果が今本当に出てきたかなというところだと思います。平成23年度になりますが、中原区内で開催回数が211回ありまして、参加人数が親子合わせて１万410人ということで、数から見ても確かにすごいなと思います。

　それから、生まれて３カ月健診を終えるまでに新生児訪問か、地域の方々のこんにちは赤ちゃん訪問を受けるか、どちらかを選択するというお話が先ほどありましたが、私たちは、民生委員の皆様方ですとか地域の皆様方も含めまして、こんにちは赤ちゃん訪問のほうに携わらせていただいています。決して利用者は多くなく、全体の18％ぐらいがこんにちは赤ちゃん訪問の利用をされているのですけれども、その中で一番成果があったと思うのは、里帰りから戻られてきた方が、ここで地域の方の声をじかに聞く最初のきっかけになったというお話を結構聞きます。お知らせをいただいてからこちらが訪問に伺うまでに約１カ月から、長いと２カ月近く間があるんですが、出産で里帰りされて、それから戻られてくる期間が今非常に長いということで、３カ月健診のぎりぎりで戻られるというケースが多くて、戻ってきた後で地域との接点が何もなく、連絡等も、こういう御時世ですからセキュリティも厳しくて、自分から声を発するということがなかなかできない状況で、伺うというのは非常に成果があるのではないかと思っています。

　それから、中原区子育てネットワーク会議ですが、実は先日、３月15日に今年度最後の会合がありまして、７つに分かれた部会からいろいろ報告があったのですが、その中で特徴的だったのは、横並びの中で子育て支援という形もありますが、その中から自分たちで子育てサークルを立ち上げて、自主的な活動を進めていく必要があるということで、子育て自主グループ支援部会があるんですが、そちらに参加されている方々でも、最近は、設定された場所への参加はあるんですが、自分たちでリーダーを決めて動き出すことがなかなか難しいということで、これに関しては非常に受け身の方が多い。これは生活スタイルが違っていたり、人の考え方が違うということも原因にあります。また、グループづくりよりも情報交換のほうに重きを置いたサークルが望まれるということで、その辺も将来地域をしょって立っていただける人材を育成するまでの課題になるのではないかと思っております。

　それから、こういった活動場所ですが、区役所を中心にしまして、地元の小杉こども文

化センターですとか新丸子こども文化センター、福祉パルなどを皆さんよく利用されるんですが、実際の利用状況を見ますと、利用を希望される方が結構多くて、パルの話ですと、月40件中20件が子育て関連団体への貸し出しということで、定員オーバーで申し込みを断らざるを得ない状況がある。こう考えると、日常的に行える支援場所も必要かなと思います。

ただ、子育て支援の拠点としては、今のところ、先ほどのこども文化センターも含めまして、支援センターですとか保育園等の活動もありますので、こちらから求めるのはもっと細かい地域の中で、年代を超えて地域の方々の触れ合いの拠点となるような場所が必要ではないかなと考えております。

以上です。

川連委員長　ありがとうございました。

それでは、今度は男性に移りますけれども、子育て中の稲富委員、いかがでしょうか。

稲富委員　運営部会の中でもお話をさせていただいたんですけれども、先ほどもありましたが、今、中原はすごく充実しているということで、その運営については継続をしつつ、出てこられない方をどうするかというところがやっぱり課題かなと思っています。

また、小さいお子さんの世代は多分それでうまくいって、もう少し大きくなった子どもたちをどういうふうにしていくのかというのは、やっぱり課題があるのかなと感じておりまして、その辺についても、意見の中でありましたけれども、いわゆる高齢者の方とともに遊ぶような形で、先ほどありました教育を誰が見るのかという課題への糸口につなげていったほうがいいのかなという考えも持ちながら聞いておりました。今の世代の課題という意味では、共働き世代の中で、育児のときに一時的に家庭に入った方が表に出にくいということがあったりとか、そういったことへの対応については、この中で議論していかなければいけないかなと改めて思っていた次第です。

以上です。

川連委員長　ありがとうございました。私も前から言っていることですけれども、子育てサロンに出てこられない人、出てこない人を何とかしないといけないと思います。特に成田委員は子育てサロンにもいらっしゃっているわけですから、そういう席で参加された方に、きょう来られなかったお母さんがもしいらっしゃったら、この次はという話で、少しコマーシャルをしていただくというか、よろしくお願いしたいと思います。

中森委員。

中森委員　今の話を聞くと、来られないとか、そういう情報がちゃんと伝わっていない方たちが利用できなくなっているというのは確かに思います。特に外国籍の方に関して、どうやってその方たちがそういう場に参加できるかを考えないといけないかなとは思っています。どういうふうにその方たちに情報が伝わるようにすればいいかを、これからも皆さんと一緒に考えていったほうがいいかなと思っています。

川連委員長　ありがとうございました。

それでは、青木委員、お願いします。

青木委員　青木です。先ほど「中原区における子育て支援について」というスライドがあって、その中の未就学児の過ごし方で、３歳以下は在宅が多いですね。もちろん０歳、１歳、２歳は80％か90％、３歳も50％ぐらいは在宅ということで、中原区の子育てサロンは０歳から３歳、これは間違いないということですね。

それで、ことしで10年たつのですけれども、私も丸子地区で立ち上げから10年やっておりまして、もともと子育てサロンというのは、平成12年に全国民生委員児童委員連合会、いわゆる全民児連から第１次アクションプランというので行動計画が出まして、地域の親子100人と知り合い支え合おうと。これは、要するに地域の50組の親子と子育てサロンをやりなさいと全国に発信されたんですね。それは当時、今もそうですけれども、核家族化が進んで、川崎でも90％は核家族ということで、育児不安、育児困難の若い母親が乳幼児の虐待に走って、虐待が社会問題になっていて、それで子育てサロンが始まったわけですね。

平成15年６月に中原区の子育て支援推進実行委員会が立ち上げられて、中原区の５地区で子育てサロンが始まった。一番最初に始まったのは大戸地区と住吉地区。大戸は社協中心、住吉は民協中心で始まって、私ども丸子地区は社協と民協と両方で子育て支援推進委員会をつくって始めまして、その後すぐにいこいの家ができましたので、いこいの家と山王会館で、いこいの家は本来、老人いこいの家というぐらいで、細かいことを言うと、本当は赤ちゃんはいけないんですけれども、私どもは高齢者との交流ということでいこいの家を使って、大変盛況です。

そのときに、スタッフは民生委員・児童委員と私ども社会福祉協議会の青少年福祉部の方、それにボランティア、要するに支援者づくりということで、最近でも18人いたのですけれども、そのうち３～４人が民生委員になりました。ボランティアが民生委員になったりということで、民生委員の方もボランティア経験者が非常に多いのですけれども、そういうことで人づくりしたり、場所についても、いこいの家とか山王会館と場所の確保にも比較的恵まれて今日に至っている。それはなぜ盛況かというと、中原区役所のこども支援室、保健福祉サービス課、保健師さん、そういう人たちの御指導というか、支援と、我々民間との協働事業が極めてスムーズだったということで、今日、川崎市内で中原区が子育て支援は一番進んでいると言われる要因はそこです。

最近の丸子の状況も、24年度は12回終わりまして、１回平均72組が参加しました。23年度は東日本大震災があって54組。ですから、23年度に比べて本年度は１回平均18組多い。その前の22年度も65組。ですから、３月11日の東日本大震災というのは、若い母親のショックがすごく大きかった。若い母親が家に閉じこもって、怖いから外へ出てこなかった。それで多分23年度は虐待がすごく増えた。24年度は子育てサロンにたくさん出てきました

ので、虐待がどうなったかというのは非常に興味があるところでございます。

今、新生児訪問とこんにちは赤ちゃん訪問という制度がありまして、その両方を通して地域の16カ所ある子育てサロンに若い母親が赤ちゃんと出てきていただくということが、これから将来にわたっての児童虐待とかいじめの抑止につながるのではないかということです。先ほどの３歳までの在宅者が多い。そこのところで、０歳から３歳までの子育て支援を今後とも地域で、しっかりとボランティアを養成しながら、それぞれ場所を確保しながらやっていくということが必要ではないかと思います。

以上でございます。

川連委員長　ありがとうございました。青木委員が一生懸命やっていらっしゃることは私も重々承知しておりますけれども、今後もよろしくお願いいたします。

塚本委員、今度はＮＰＯのほうで、子育てのサロンがありますよね。御意見をよろしくお願いします。

塚本委員　再開発地区の高層マンションでは、30代、40代の子育て世代の人たちが大変多く住んでいて、小さいお子さんも大変多い。少子化ってどこの話ぐらい、どこのマンションでも毎月赤ちゃんが生まれているという状況がここ数年続いています。ＮＰＯの小杉駅周辺エリアマネジメントでも子育て支援事業ということで、月に３回、パパママパークという親子が集まれる場づくりを進めていて、大変盛況ですが、先ほど成田委員からお話もありましたように、ちょっと受け身というか、もちろんそういう場があれば皆さん集まってきていただいて、喜ばれているんですが、運営するに当たって、できれば運営する側も子育ての手があいた人たち、マンションのママさんとかパパさんがお手伝いいただくということを理想として進めようとしているんですが、なかなかそうはいかず、ＮＰＯを立ち上げるときに、最初、すみませんが、お手伝いくださいとお願いしているエリア外にお住まいの児童委員の方とか、子育て支援に関して大変お詳しい方々がボランティアで、御厚意でお手伝いいただいて始めたんですが、５年たっても同じような状況が続いていて、運営する側に住民がまだ入ってこれていないというのがとても大きな課題です。

資料の最後のテーマというところで、「地域で子どもを見たい人と、見てもらいたい人を結びつける方法を考える」という、ここに大変興味がありまして、見てもらいたい人はたくさんいるんですね。ただ、見たい人をどういうふうに発掘していくかということが私としてはとても身近な課題として感じているので、そのあたりを区民会議の場で議論した中でヒントがつかめれば、自分の地域の中でもそれを参考にしたいと思っていますし、ぜひ先輩の皆様方からそのあたりの御意見も伺いたいと思っているところでございます。

川連委員長　ありがとうございました。

反町委員、お願いします。

反町委員　まず、先ほど事務局から御報告いただいた内容は大変細かい内容で、改めて勉強になりました。ありがとうございました。私も以前から、区民会議の役割としては、今

足りないもの、必要とされているものを形にしていくというか、そういう環境を整えていくためのきっかけをつくることであると考えておりまして、今回いろんな報告を伺って、こども支援室の方、地域の方が本当に長い間、地域のことを考えて、すごくいろんな取り組みをされてきたんだなというのを改めて感じさせていただきました。そういう場が足りない、足りないと言われておりますが、決して何もやっていないわけではなくて、むしろ本当にいろいろやってこられて、いろんな努力をしていただいている中で、それでも追いつかないぐらい中原区の発展が著しいのかなと感じております。

そんな中で、私としては、以前申し上げていることの１つとしては、情報を必要な方に伝えたい。子育て世代の方に伝えるためには、一定のお知らせとか、参加される方はいろんなイベントに参加されるけれども、なかなかそういうものに出てこられない方は出てこられないというところがあるようなので、そんな中での乳幼児健診は、情報発信のすごく貴重な、そして都合のいい機会ということで、うまく活用していけたらいいのではないかと思っているので、申し上げておきたいと思います。

もう１つ、報告いただいた中で、中原区の住宅展示場内に場所を無料で提供いただいていて、ママカフェということで、雰囲気がいいでしょうし、すごくすてきなことなのかなと。こういった場所をどうして提供していただける運びになったのかなというのが気になるんですけれども、そのためには会場提供側の理解と、それを実際に運営していく側のいろんな調整とか努力がまた必要だったのではないかと想像しているところですが、これも現状は月１回ということで、もしこれがもっと借りられるようになるのであれば、これは誰が運営するのかみたいなところはあると思うんですが、足りないという声もあるようなので、ぜひやっていけたらいいのかなと。会場を提供していただくための交渉であったり、あるいは内容とか、誰が運営するかとか、どういうふうにやっていくかというマッチングまでは区民会議と行政の力でどんどんやっていけると、一般の方だけでやるよりはきっとスピーディーにいくのかなと思っております。

そんなわけで、ここまで皆様のいろんなお話も伺ってきて、私の区民会議委員の意見としては、どんどん具体的に行動に移していきたいというところがありまして、まず住宅展示場のこういったところもすごく勉強になりそうなので、ぜひ行ってみたいなとも思うんですが、どういうふうにやっていくかというところを私自身としてはどんどん行動に移していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

川連委員長　ありがとうございました。反町委員とはこれからもいろいろとお話ししたいことがあるので、またお話をしましょう。

では、私が指名をしていない委員の方で、まだどなたかいらっしゃいますか。尾木委員、お願いします。

尾木委員　丸子地区では青木委員がすごく一生懸命やっていただいているので、私は専門

ではないんですけれども、素朴な疑問で、資料５の区の取り組みについて、総合的な子ども支援事業というのは11までいろいろありますよね。このパンフレットを見ると、地域のほうは本当に一生懸命やっているんですよ。私も現場を見たことがありますけれども。こども支援室でこんなにたくさんいろんな方面に事業を展開しているのは、必要だから展開しているのかもしれませんけれども、私なんかは素人で、もう少し方向性を束ねることはできないのかなという疑問があるんですよね。それは行政が必要だから11項目になっているのでしょうけれども、似通った事業のような感じもするんです。それで、こども支援室がほとんど所管をしているというので、その辺の行政の広がりというのは、必要だからといえばそれまでかもしれないけれども、地域でみんな非常に頑張っているので、行政としてももうちょっとスマートな支援の方法はないものかと素人ながらに思っています。これは文句ではありません。意見でございますので、もし教えていただければ大変ありがたいと思っています。

事務局　こども支援室ですが、尾木委員、ありがとうございます。総合的な子育て支援事業というのは、実は職員がやっているだけではないんです。地域の皆さんの力をかりてやっているのがほとんどです。こども支援室は職員が９人しかいませんから、こんなにたくさんの事業はできるわけがなく、御指摘のとおり、事業を絶えず見直していくのは私たち地方公務員の役割ですから、見直しはしていきますけれども、地域のニーズに応じた適切な事業の運営に心がけていきたいと思っております。

以上です。

尾木委員　ありがとうございました。別に注文をつけているわけではないんですけれども。それで、この中で予算が増えているもの、削られているものがあるんですが、それはそういった活動の中で、行政のほうで採用されているのかなとは思っておりますが、一般の人が見て、どこがどういうふうに違うのか私もよくわからないんだけど、いろんな現場での会があったり目的があって、それに行政が乗っかっているということで、このように多岐にわたっているというのは理解しているつもりですけれども、もうちょっと有機的に結びつけるということも将来的には考えたほうがいいのかなと思っているので、ちょっと発言させていただきました。それだけでございますので、よろしくお願いします。

板倉副委員長　続いて質問で申しわけないんですが、せっかくですから。今、子育てというのは、ほかの区に比較して中原区が自慢できるようなところはこういうところというのがありましたらお願いしたいのと、区民が協力してやるとしたらどういう御要求があるのか、どんなところをやってほしいのかということと、もう１つ、小学校の低学年に関するものがこの中にほとんど入っていないんですが、その辺はどういうふうに考えられておるのか。申しわけないんですが、３点お願いいたします。

事務局　再三出ているんですけれども、中原区の最大の特徴は、「子育てはみんなの“ちから”で！」ということで、区内の７つの社会福祉協議会が子育てネットワークをきちん

と形にしてくださっているところが中原区の特徴だろうと思っています。

それと、私がぜひお願いしたいと思うのは、先ほど私が報告しましたけれども、地域に出てこない人はきっと知らないのではないか。みんな何かあれば行くよとアンケートでも答えているのに実際には利用したことがないと回答しているのは、こういった細々とした営みを知らないのではないかなと思うんです。そういう人たちにぜひ私たちの情報を届けたいと思います。なかなか届かない。いろいろなツールを使っているんですけれども、一番知っていらっしゃるのは地域に住んでいる方々なんです。向こう三軒両隣を知っていらっしゃる地域の方々の力をお借りするしかないと思っています。

小学校ですけれども、事業立てでは、これは予算主義なものですから書いていないのですけれども、御承知のとおり区内には10のこども文化センターがあります。そこでたくさんの子どもたちが遊んでくれています。さらには、さっき私がパワーポイントの一番最後でもやりましたけれども、とりわけ幼稚園・保育園・小学校の連携がうまくとれるようにしていきたいなと。今もやっていますけれども、当事者を巻き込んでいませんので。今やっているのは教員同士がとりあえず顔がわかる。そこからだと思っていますので、小さな一歩を踏み出したということを御理解いただきたいと思います。

以上です。

尾木委員　今御発言いただいたんですが、総合的な子ども支援事業の７番に中原区子育て情報発信事業とございますよね。今御発言いただいたのは、そういうＰＲを知らない人も多いのではないかということをおっしゃっていたんだけど、24年度と25年度の予算額を見ますと予算が削られてしまっているんですよね。そういうことがネックになっているなら、予算を削らないで、こういうところにもうちょっとお金を使って、今までにないような新しい情報発信事業を考えられたほうがいいのではないですか。私は査定官ではないから余計なお世話かもしれませんけれども、７番なんかは削られているんですよね。

事務局　そうですね。予算というのは慣れてくれば、そんなにたくさんの投資をしなくてもできる。例えば、子育て情報ガイドブックは赤ちゃんが生まれて出生届を出してくれた方に「おめでとうございます」と渡すものです。毎年更新していますけれども……。

尾木委員　いやいや、そういうことを言っているのではない。パンフレットの話をしているのではなくて、新しい情報発信事業を立ち上げたらどうですかということを言っている。

事務局　予算の減の理由は、端的に言うと、子育てサロン１０周年記念誌をつくり終わったから減にしただけということです。何かをやめたというわけではないんです。

尾木委員　もうちょっと別の形の事業をやられたらどうですかということを言っている。

事務局　一生懸命考えてみたいと思います。知らないという人たちにこんなのをやっていると伝えたいんですけれども、誰が来ていないのかわからない。

尾木委員　今、パンフレットなんかでは余り広がりませんよ。もうちょっと別の方法を考

えたほうがいいと思いますよ。

事務局　お知恵を拝借いたしたいと思います。

事務局　補足意見をよろしいでしょうか。今、尾木委員の額が減ったのはちょっと力を抜いているのではないかという印象だとは思うんですが、そうではなくて、パンフレットの種類を工夫して、結果的に額が減ったんです。パンフレットもやたら数をまけばいいというものではなくて、効果的にやるということをこども支援室でも工夫しまして、少ない額で効果を上げていく広報というんですか、リーフレットなりを工夫した結果、額が減っただけであって、決して力を抜いてここの予算を削ったというわけではございませんので、その辺を御承知願いたいと思います。

川連委員長　岡本委員。

岡本委員　今の出てこないということが私も非常に気になっていたんです。私たちは食改として、年２回は社協以外のサロンに支援ということで行っております。それで、お母さん方とお話ししていますと、９カ月のお子さんを持ったお母さんだったんですけれども、初めて知りましたと。それで見えていたんですけれども、核家族の方だったんです。そのお母さんのおっしゃることには、情報提供もすごく求めていらっしゃったんですけれども、とにかくここで仲間と一緒に赤ちゃんを見ながら、自分の愚痴をこぼしたり、そのようなことでほっとできるところが欲しいんですとおっしゃったんです。

もう１つ、昨年度の子育てふれあいカフェですか、反町さんにすごくお世話になったんですけれども、私どもはあのときに、赤ちゃんを抱っこして音楽を聞きたいとか、そのようなことに参加したいとかという要望がすごくあったので、昨年度も一緒にしていただいたんですが、１回だけではなくて、もっともっとそのような場所を広げていただければいいのかなというのが私のお願いです。食育というところから皆さんと御一緒にお話しして、おやつも皆さんどこかで買ったものとかを与えていらしたんですけれども、そこで煮干しのおやつとか、このようなものもおやつになるのかなと発見していただいたということで、私たちは子育てふれあいカフェはすごく有効だったように思うので、これを皆さんのお力でなんとかしていただければと思っております。

以上でございます。

川連委員長　ありがとうございました。

伊藤委員、お願いします。

伊藤委員　今の子育てカフェの件ですけれども、２～３日前の神奈川新聞に出たのは、「民間力で育児支援」ということで、ちょっと読んでみますね。横浜市は今月から、毎週土日に無料で育児イベントを展開する「どにち★ひろば」を青葉区で始めた。市が事業を提案し、協力企業を募って実施する「テーマ型共創」の初事業で、市や利用者は費用負担がなく、企業側はイメージアップにつながるなど、双方のメリットが期待されている。多分行政の方は知っていらっしゃると思うんですけれども、そういう民間の力を活用して、

例えば子育てふれあいカフェに民間を入れていってしまうのもおもしろいのではないかと思います。

川連委員長　ありがとうございました。

　中山委員、いかがですか。

中山委員　今ごろと言わないで教えてもらいたいんですが、子育ての年齢ですが、おっしゃったように未就学児童と考えていいですか。小学校低学年まで入るということになりますか。お願いいたします。

事務局　先ほどの報告の中にも入れましたけれども、子ども・子育てネットワークですが、中原区は、未就学児のネットワーク、それから小学校に上がってから高校生までのネットワーク、２種類持っています。

中山委員　わかりました。

　私は丸子多摩川老人いこいの家で２～３年お手伝いをいたしました。先ほどの話の中でも核家族の方が非常に多いということですから、確かにお困りになっている家庭は非常に多いんです。ただし、お父さん、教育のことだけはちょっと違うから黙っていたほうがいいのではないかと女房に言われることがあるんです。それらから考えると、行政のほうもいろいろやっているわけですから、行政と、またじじばばもいい意見を持っている場合もあるわけだから、両方をうまく使ってやっていけばいいのではないかと今お話を聞きながら思いました。

　以上です。

川連委員長　ありがとうございました。

　あとございますでしょうか。

橋本委員　情報を効果的にどのように皆さんに広めるか。要するに、サロンとかに出てこられない。どうして出てこないのかという問題は私も常に感じています。そして、こんなことを言ったら失礼かもしれませんけれども、行政はパンフレットとか何かをつくるのがお上手です。だけど、それをいかに皆さんに広めて事業をするときに人が集まるか、そういうことはすごく下手ですね。私は４年間いろんなことを計画した中で、すごく感じました。確かにいろんなものをつくっていただくのはすばらしい。資料とか、そういうものは、私たちはとてもできないことですけれども、資料とかパンフレットは本当に有効なときに使うということで、ただ刷って、そこら辺に置いておいたらいいのか、それは違うと思います。一番大切なことは、出てこられない方とか、そういう方の――もちろんママさんたちの性格もありますよね。私なんかはどんどん出てきたらいいではないかと思うほうですけれども、引っ込み思案の方とか、人と触れ合うのが余り好きではないとか、そういう方もいっぱいいますので、どうぞいらしてくださいと言う、パンフレットを掲示板に張るだけでは無理だと思いますね。ですから、やはり地域の力、口コミというか、世代間を超えて皆さんがそういうことに声かけをして、関心を持つということが大事かなとすごく

感じます。

私自身もそういう経験があります。今でもしておりますけれども、うちのすぐ近くに45世帯ぐらいのマンションがありますが、12年になります。そこにすごく私に懐いたママさんがいました。本当に懐いたんです。私も娘のように思って接したんですけれども、おなかが大きいときに越していらして出産なさって、そのお子さんが小学校に入って、その過程で、学校の先生ですが、頼まれました。産休明けになるが、保育所に入れない、仕事が始まる４月から預かってほしいということでしたけれども、私はそこまで責任を持てませんし、お断りしたんですが、必要なときは必ずお手伝いするということで、急にお医者さんにかかるようなときでも私が上の子を預かってあげたりとか、そのようなことでいろいろ接してきたんです。その子が、きょう無事に小学校を卒業したんですけれども、本当に自分の孫のようにかわいいんです。

ですから、私たちの年代がもう少し若い人に心広く接してあげないと、今、「若いから」とか「若い人が」と、すぐに出るんですね。でも、それは違うと思うんですね。やはり時代の流れで、考え方も違いますし、私たちが育ったときよりも裕福に育っていますので、我慢も足りないと思いますけれども、いいところもいっぱいある。そういうところを地域がもっと細かく見て、私たちがそのようなことに協力していかないと、行政だけに予算をいっぱいとってもらって、保健所から先生が来てちょっと講義をするとか、そのぐらいのサロンだったら何か考えてしまうときがありますね。畳の上にじかに生後何カ月ぐらいの子を置いて平気でいるママさんもいますけれども、私たちだったら頭のあたりにバスタオルぐらい敷いてやったらいいのではないかと。それは私たち世代の考えることですから、もう少し世代間の交流があったほうがいいと思っています。

ごめんなさい。勝手なことを言いました。

川連委員長　ありがとうございました。

最後に、男性の槁本委員、お願いします。

槁本委員　なかなか出てこない人の取っかかりをつくるという部分がありましたが、チラシなども、いっぱいあるところですとなかなか見つけにくいと思うんですね。こういった場合、病院の協力が得られるかどうかわからないんですが、小児科とか歯科などを利用させてもらうと、ああいうところへ通うことはあると思いますのでね。交流の場に出られない人でも病院や何かは通うので、そういったところでこういうものがありますよというチラシなども置いてもらえれば取っかかりができるのかなという気がします。

それから、私はマンションに住んでいるんですが、子どもたちの遊ぶ場があるんです。近くに遊ぶ場がないものですから、よそからいっぱい来て、午前中は小さい子どもさんですが、結構集まっているんですね。マンションの協力の問題もあると思うんですが、こういうサロンがあるよというチラシなどがそういった場に置かれれば、そこから一歩進んで足を運ぶようになるのかどうか。これは個人の資質もあると思うんですが、チラシはいい

ものがあると思いますので、要望ですが、そういったところも工夫してやっていただければと思っております。

川連委員長　ありがとうございました。

尾木委員　出てこない人は、知らないで出てこないのか、知っていても出てこないのか、この２種類あると思うんですよ。だから、それを分けて攻めたほうがいいと思います。今思いついたんだけど、川崎にはＦＭ放送がありますよね。ああいうものを利用して子育てサロンの現場を取材して、若いお母さん方の感想を聞いたりしたらどうですか。ちょっとはお金がかかるでしょうけれども、パンフレットをつくるよりはよほど有効かと思いますよ。若い人はああいうものを聞いていますから試してみたらどうですか。それだけです。

川連委員長　ありがとうございました。

　では、時間の関係もございますので、本テーマに関する意見交換は以上とさせていただきます。皆様の御意見は、この後、委員を選任いたします課題調査部会でさらに議論をしていただこうと思います。

（３）課題調査部会委員の選任

川連委員長　つきましては、課題調査部会委員の選任に移ります。委員の選出に当たりましては、区民会議条例施行規則第４条第２項におきまして、部会に所属する委員は、委員長が区民会議に諮って指名すると規定されております。まず、副委員長１名につきましては、課題調査部会への参加をお願いしたいと思います。前回に引き続き板倉委員は課題調査部会への参加をお願いいたします。ほかの委員につきましては、本部会の趣旨から見て、今回の審議テーマについて関心の高い方から優先的に選出したいと思いますので、よろしくお願いをいたします。課題調査部会委員をやってみたいという方は挙手をお願いしたいと思います。――全然手が挙がりませんね。それでは指名をいたします。青木委員、稲富委員、梅原委員、反町委員、但野委員、冨岡副委員長、中森委員、成田委員に入っていただきます。以上とさせていただきますけれども、自分もやってみたいという方がいらっしゃったら遠慮しないで手を挙げていただきます。よろしいですか。

　それでは、課題調査部会につきましては、板倉委員長、今申し上げました青木委員、稲富委員、梅原委員、反町委員、但野委員、冨岡委員、中森委員、成田委員でございます。よろしくお願いをいたします。

　今委員に選任された方は、この会議終了後、505会議室にお集まりいただきたいと思います。

（４）「絆を深めて支え合う防災体制づくり」の取組について

川連委員長　では、次の議題に移ります。「絆を深めて支え合う防災体制づくり」の取組について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　それでは、事務局より説明いたします。

区民会議の１つ目のテーマ「絆を深めて支え合う防災体制づくり」ということで、区民会議で御審議いただいた結果がもう反映できましたので、その報告です。

まず１点目については、外国人の方にも災害のとき、もしくは防災に関する情報を伝えていったほうがいいのではないかというテーマで御審議いただいたんですが、今まで中原市民館で外国人の方に識字学習活動日本語学級というのをやっているんですね。これは日本語の講座ですが、その中で特別に防災講座を実施いたしました。日にちが３月５日、場所は中原市民館の会議室で、当日、識字学級の中で、わかりやすいということで阪神大震災の映像を見ていただきました。映像を見るだけではなくて、区役所の危機管理担当から日ごろの備えについて説明いたしました。

２ページ目を見ていただくと、当日使用した資料ですが、国際交流協会でつくっていただいているリーフレットで説明いたしました。当初、危機管理室がつくっている「そなえる　かわさき　やさしいにほんご版」を使って説明する予定でしたが、外国人の方には難しいということで、国際交流協会がつくったリーフレットを使用いたしました。

受講者の反応については、そこに書いてあるとおりですが、一番最後に、先ほども触れましたが、「そなえる　かわさき　やさしいにほんご版」は題名と違って難し過ぎるということなので、母国語版の検討も含めてつくってほしいという意見がありましたので、これからの課題ということで検討させていただきたいと思います。

２点目です。次のページになるんですが、防災情報の発信に関する取り組みということで、区役所に防災関係のパンフレットを22種類集めましてコーナーを設置いたしました。場所については区役所１階正面玄関、自動ドアを入って右側のところにその写真のとおりラックを設けてパンフレット類を設置いたしました。これについては、区役所のスペースも限られておりますので、区民会議の中でも議論していただいたように常設ではなくて、３・11の時期と、９月１日の防災の日を挟んで一時的でいいのではないかという議論をしていただいたので、３月11日から４月12日まで、およそ１カ月間展示させていただきます。これは非常に人気が高くて、防災マップなどは常に補充していないとすぐなくなってしまう状況です。やはり時節柄、関心が高いのかなと思っております。

それと、一番下に写真がありますが、中原区役所のホームページにやはり防災関係ということで、「なかはら防災資料館」という名前で見られるようにしてあります。これについては常設です。ホームページを見れば常にいろんな防災関係の情報が見られるようになっております。

次のページを見ていただくと、身近な防災資器材の紹介という形で、これも区民会議の中の議論でありましたとおり、防災関係の資器材が区内の各所にあるけれども、使い方がわかりませんねという議論を受けて、市政だよりの中原区版に４月１日号から１年間、常設のコーナーを設けまして、名称といたしましては「防災マメ知識」ということで、毎月

紹介していきます。それによって区民の方にお知らせしていこうかなと思っております。

取り組み結果については以上でございます。

川連委員長　ありがとうございました。今、行政の説明がございましたけれども、何か御質問があれば。

塚本委員　22種類のパンフレットを期間限定で置いていただけるということですけれども、中原区のサイトのほうには常設する。22種類のパンフレットの情報がほぼカバーできているのかどうか、全く別物なのかというのをお聞きしたいんです。

事務局　1階のコーナーに置いてある22種類については、もともと紙で制作したものは置いてあります。ただ、ホームページのほうは、できる限り載せたいんですが、今まで紙しかつくっていないものについては載せられないということで、全てが載っているわけではございませんので、御了承をお願いいたします。

川連委員長　塚本委員、よろしいでしょうか。

あとは……。

但野委員　1の外国人市民の防災への理解向上というところですが、当日何人ぐらい集まられたのでしょうか。

事務局　識字学級に参加していた37名の方を対象にいたしました。今回、一般的に募って参加したい方という形ではなくて、識字学級そのものの開催に合わせたので、37名の参加ということでございます。

但野委員　書いてありましたね。すみません。

今後の開催とか、そういったプランはあるのでしょうか。

事務局　今後やりたいとは思っているんですね。資料の最後のところにも書いてありますが、来年度以降、平成25年度に入ってから実施する場合には、学期の初めに予定を組んでほしいということと、十分な準備期間をとってから実施してくださいという意見もありました。今回、十分な形でできなかったかなと。100％ではなかったという反省も含めて、来年度も実施したいと考えております。

但野委員　ありがとうございました。とてもすてきな取り組みだと思いますので、ぜひ広くやっていけたらいいなと思いました。

川連委員長　よろしいでしょうか。

ほかに何かございますか。

中森委員　外国人市民の防災に関してですけれども、確かに突然やって、参加者もそんなに大勢ではなかったんですが、これは日本語が何となく理解できる方たちが参加したのでしょうか。それとも、識字学級に参加している外国籍の方が全員参加したかを知りたいんです。中原市民館ではいろんなコースがあって、全く日本語がわからないグループがいたり、日常会話ができる方たちもいたり、もうちょっとレベルが高くなっているグループもいるんですね。全員がそれに参加したか、何とか日本語ができる方たちだけが参加したか

を知りたいんです。

事務局　今委員がおっしゃったのは、市民館の中の学級でも多分何コースかあると思うんですね。これは識字学習活動の日本語学級ということで、ほぼわからないというんですか、まだ来て日数も浅くて、当日見た印象では、全くわからない方もいたし、少し理解できる方がいるということで、恐らく初心者というんですか、日本語がまだそんなに得意ではないところです。ただ、全ての市民学級の人に対してやったかというと、そうではなくて、初級コースを対象に今回はやらせていただきました。

中森委員　今は中原市民館だったんですけれども、中原区内の例えば国際交流センターでも日本語講座があるので、できれば中原区内で勉強している方たちが対象になったらいいかなと。さっき言われたパンフレットも、使おうとしていたパンフレットが難し過ぎて使えなかったというのも、言葉とかをいろいろ変えて、易しい日本語ではなくて、わかりやすい日本語にしたほうがいいのではないかなと。おまけに母語のも追加して、両方わかるようにしたほうがいいのではないかと思います。

事務局　来年度実施する場合に、今の意見を参考にしながら、市民館だけではなくて、そこでできるのかどうか。それとテキストについても、わかりやすいものができるのかどうか。これは区役所だけでつくっているものではないので、危機管理室という専門部署と相談しながら、実は５カ国語ぐらいでつくってはいるんですが、なかなか更新できないという状況もあるので、その辺も検討しながら実施させていただきたいと思います。ありがとうございます。

川連委員長　よろしいでしょうか。

　塚本委員。

塚本委員　市政だよりの中原区版で身近な防災対策用の資器材などを紹介するコラムを連載するというのは、とてもいい試みだなと思っていまして、１年間で12個たまるということになりますし、半年なり１年でそれだけを例えばテキストにして、それをいただければこっちのほうで編集して、またマンションに全戸配布するとか、自主防災組織に配るとか、いろんな使い勝手がありそうな気がしているので、ぜひそういうことでも御協力いただければと思います。期待しています。

川連委員長　あとはよろしいでしょうか。

（５）第４期区民会議中間報告書について

川連委員長　次に、第４期区民会議中間報告書について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　説明させていただきます。

　資料４、Ａ４の縦の１ページ物です。これは中間報告書ということで、例年、区民会議の任期の１年目が終わるときに中間報告書という形で発行しております。２年間終わった

ときには報告書という形で出しますが、これは１年目で今までの取り組みの紹介ということで、ここに書いてあるのは目次だけですが、一般的に区民会議とはこんなものですよということと、あと今まで審議した検討テーマ、まず１つ目が「絆を深めて支え合う防災体制づくり」という形で、これは一部ですが、先ほど報告させていただいた結果まで含めて、こういう形で取り組みをしましたということと、２つ目の検討テーマ、きょう御審議いただいた子育てのテーマとして、「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」という形で紹介させていただきます。これは３月末の発行予定でございます。発行したらまた報告させていただきますが、この構成で発行させていただきたいと思います。

以上でございます。

川連委員長　ありがとうございました。質問がございますでしょうか。――ないようですね。

（６）平成25年度中原区地域課題対応事業について

川連委員長　では次に、平成25年度中原区地域課題対応事業について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　続きまして、平成25年度の中原区の地域課題対応事業を報告いたします。

資料５で、Ａ３の横の大きな資料でございます。これは来年度の事業の枠組みというか、全てでございますが、まず中事業の１つ目、安全・安心まちづくり事業という形で、そこに書いてある８事業を実施させていただきます。ここで特徴的なのは、６、７、８の後ろ３つ、これは新規事業となっておりまして、交通安全も入っておりますが、やはり安全・安心、防災に力を入れていくということで、新規事業になっております。

中事業の２つ目、地域福祉・健康づくり事業ということで、特徴的なのは４番目、中原区高齢者地域包括ケア事業ということで、これも新規事業になっております。内容については、リーフレットを作成して高齢者の見守りを進めていこうという事業でございます。

中事業の３つ目、総合的な子ども支援事業ということで、これは先ほどから活発に議論していただいているんですが、項目としても11事業と一番多いという形の事業になっております。内容については、名称だけ見ると似たような事業のような印象を受けるんですが、当然年齢によって違ったり、あと対象の困っている人たちがどう違うかという形で、それぞれが必要な事業だと考えております。ここで特徴的なのは11番目、中原区親子健康づくり・仲間づくり事業、これは区民会議課題ということで新規の事業でございます。内容については、子育て親子を対象にして、健康増進と仲間づくりを目的にして、先ほど区の事業説明のプロジェクターの中でもありましたが、ミミケロ体操を子育てグループを通じて広く普及啓発していきたいという事業でございます。

続きまして、中事業の４番目、環境まちづくり事業ということで、持続可能な中原区をつくっていくということと、中原区がどうもヒートアイランド現象で、川崎市の中で昼間

一番暑いのではないかというデータもありますので、これを解決していくために継続していきたいと思っております。

続きまして、裏をめくっていただいて、地域資源活用事業ということでございまして、これは中原区内に文化的な資源もしくはスポーツ資源、その他の資源がありますので、これを有効に使って元気な中原をつくっていこうという事業でございまして、特徴的なものといたしましては、11番目の親子サッカードリーム教室開催事業という形で、これは新規とはなっておりますが、今年度も実施いたしましたが、区の独自事業で進めるということで、名称上新規になっております。これはフロンターレという中原区の資産、川崎市の宝でもあるんですが、一流選手と交流をしながらサッカー教室をしていくという形で、スポーツを通じて元気のあるまちづくりをしていきたいと思っております。

中事業の６番目、地域コミュニティ活性化推進事業ということで、額的には一番多いんですが、これも力を入れなければいけないなと。コミュニティをつくっていくというのは、区民会議のテーマの中でも新旧住民というんですか、新たな住民の方と今までの住民の方の交流を全てのテーマにかけておりますので、力を入れている事業でございます。特徴的なのは新規事業の８番目、９番目です。８番目のなかはらミュージカル実施事業につきましては、今年度初めて実施したんですが、区民の力を結集して、区民みずからがつくっていくミュージカル、これをいずれ中原の目玉にしていきたいという思いもありますので、力を入れているところでございます。９番目の小杉駅周辺の新たな魅力づくり推進事業ということですが、これも新規で、なおかつ額も大きいんですが、中原区といえば小杉駅周辺の再開発ではないかということで、そこの持っている力をいかに有効に使っていくのかということで、区民の皆様と一緒になって魅力発信というんですか、魅力アップをしていきたいという事業でございます。

その下の７番目については区役所サービス向上事業ということで、区役所といえば区民のためにいかにサービスを提供するかというサービス業でもございますので、例年と同じく力を入れて進めていきたいと思っております。

その下は地域課題対応その他事業ということでございまして、そこに３つありますが、１番目が市民提案型事業ということで、市民の知恵、力をかりながら、市民の発案で事業をつくっていくという形と、地域課題対応事業一般経費ということで、これは一般経費でございます。緊急対応経費は緊急時に対応できる形で持っております。

一番下にありますが、事業合計、平成24年度は7400万円余りだったんですが、平成25年度については7800万円余りということで、300万円余り増えております。若干増えたことによって一喜一憂する必要はないんですが、これからも区民のために地域のまちづくりを進めていくという意思をあらわした事業計画でございます。

以上でございます。

川連委員長　どうもありがとうございました。今、細かくいっぱい書いてあるのをぱっと

見て質問と言っても、なかなかないと思いますので、これはよく読んでいただきたいと思います。

（７）平成24年度区民会議交流会の報告について

川連委員長　次に、平成24年度区民会議交流会の報告について、これも事務局から説明をお願いいたします。

事務局　続けて説明させていただきます。

資料６になります。ちょっと分厚い資料で、平成24年度区民会議交流会報告という形で報告書ができ上がっております。２枚めくった裏側、開催概要という形で、２月14日、18時から19時30分まで、中原区の会議室、まさにこの場所で交流会を開かせていただきました。内容については、まず冒頭、阿部市長から「区民会議について」ということで、区民会議の考え方、原理原則を熱く語って、区民会議の委員の皆様の好評を得ておりました。

次に、本来の目的であります７区委員の交流という形で、各区の区民会議の委員がそれぞれ交流できるように、８つのテーブルに分かれまして議論をいたしたところです。テーマは「区民会議の認知度向上について」ということで、区民会議の認知度が市民アンケートなどでは20％ぐらいでございますので、これをどうアイデアを出して上げていくか、有意義な議論が交わされたと思っております。

市長の講話、区民会議の委員の方々の議論、アンケートについては、後ろについておりますので、後ほど目を通していただければ、非常に有意義な交流会だったと思います。

その後に、ここには書いていないんですが、懇親会をレストランなかはらで行いまして、これもまた違った意味で有意義な時間を過ごせたと思っております。

報告は以上でございます。

川連委員長　ありがとうございました。

以上で本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。ほかに皆さんから何かございましたら遠慮なくおっしゃっていただきたいと思います。――ないようですね。

４　その他

川連委員長　それでは、ここで区民会議の参与の方に一言ずつお言葉をいただきたいと思います。本日の議論を聞いていただいてお気づきの点などの助言をお願いいたします。なお、時間の都合もございますので、恐縮ですが、なるべく簡単にお願いいたします。よろしくお願いします。

押本参与　市議会の押本です。きょうは第１回定例会の最終日ということで、本会議がちょっと長引いたこともありまして、参与が少ないことを大変申しわけなく思っております。まずはおわび申し上げたいと思います。座って意見を言わせていただきたいと思います。

まず、今回の課題は「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」ということでありまして、この後、課題調査部会、運営部会を経て次回の区民会議まで検討していくということでございます。そういった部会の中でこのような視点も１つ取り入れてほしいと思う点がありまして、前回の防災体制づくりにもつながる部分ですが、特に中原区は新しい住民、その中でも子育て世代が多いというデータがあります。資料２を見ていただくと、そういった部分が見受けられると思います。そのような世代は、町会だとかマンションの組合などの加入率も低くて、なかなか自主防災組織などにも加入していない。また、地域コミュニティにも属していないのが現状です。特に、この間も不動産関係の話し合いの中で、尾木委員からもこういう意見をいただいたところでございます。ですから、子育て家庭の入り口づくりといいますか、もちろん検討課題の中にある場づくりも重要でございますけれども、次のステップにもつながる地域コミュニティへの子育て家庭の入り口づくりもセットにして考えていただきたいと思っておるところでございます。

また、先ほど防災の取り組みの報告がございました。そういった中で、先ほど塚本委員からもありましたけれども、防災資器材等の紹介を行っていくということでありますが、後ほどホームページからこういったものをダウンロードできるような仕組みができると、さまざまな防災に関する集まりなどで活用できるかなと考えますので、私からもお願いを申し上げたいと思います。

以上でございます。ありがとうございます。

松川参与　市議会の松川でございます。長時間にわたりまして闊達な御意見を拝聴させていただきました。本当にお疲れさまでございました。

まず全体的なお話をさせていただきますけれども、区民会議の各委員の皆さんが例えば担当の職員に質問をしていくということで、職員から情報を得て、それに対してまた闊達な議論をしていくという関係性がだんだん活発になってきたというのを、きょう改めて感じたところであります。区民会議というのは、区役所の諮問機関というのも変ですけれども、そういうものではなくて、行政プロセスに積極的に参加していけるような区民会議になればなと。区役所と区民会議が両輪になって動いていけるようになればと思っているところであります。

また、子育ての話でありますけれども、私も今３歳児を育てておりまして、どんぴしゃの話題でございます。確かに成田委員がおっしゃったように、地域のサークルをつくるより情報が欲しいという意見がありましたけれども、それに関しては区行政としてはさまざまなパンフレットを作成しているかと存じます。しかしながら、それをどういうふうにターゲットの方に渡していくのかが問題点でございますけれども、橋本満昭委員のお話のように、小児科医、また歯科医というのは大変効果があるのではないかと思います。また、中原区には、個別の名前を出していいのかわかりませんけれども、西松屋という子ども専門店もありますし、お父さんとお母さんが行くところに目を向けてみるのはいかがなのか

なという印象も受けました。

また、尾木委員からかわさき市民放送の話も出ましたけれども、川崎市としては、メールニュースかわさきというメールを配信するツールは持っております。ですから、情報を提供すれば、登録をしていただければつながっていくというところもありますので、そんなところも考えていただければと思います。

また、アンケートの中で、３カ月児、１歳６カ月児、３歳児を見ますと、利用しているところはどこかというと、公園がどの世代であっても第１位でありまして、公園の利用というのは区民会議の中で１つ話題として御議論いただいてもいいのかなと思っております。

また、区役所も２番目、１歳６カ月の赤ちゃんでは６位ということで順位は少し下がりましたけれども、大変子育ての拠点になっているところでございますので、その辺も含めてというところと、あと皆さんも御承知かもしれませんけれども、４月２日に新しく中原図書館が開設されます。その中に子どもたちに読み聞かせをするかまくらというのでしょうか、ドームのようなものもできておりますし、中原図書館というのも１つ、いろんなことをする場所として有効ではないのかなと思いますので、また闊達な御議論をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

以上です。

川連委員長　ありがとうございました。押本参与、松川参与の発言は今後の区民会議運営の参考にさせていただきます。

では、事務局から何かございますか。

事務局　事務連絡が２点ございます。

まず１点目ですが、次回の区民会議の日程についてお知らせしたいと思います。次回、第５回の区民会議については、今、日程候補が４日あります。これから申し上げます。７月16日（火曜日）、17日（水曜日）、18日（木曜日）、23日（火曜日）のいずれかの午後で開催を考えております。御都合の悪い方がいらっしゃいましたら、この会議の終了後、事務局まで申し出ていただきたいと思います。もう１度日程をお知らせします。７月16日、17日、18日、23日のいずれかの午後で開催したいと思っております。１点目は以上でございます。

２点目ですが、先ほど課題調査部会の委員の方が選ばれましたが、選ばれた委員につきましては、次の部会の日程調整をさせていただきますので、この会議終了後、廊下を挟んで反対側ですが、505会議室にお集まりいただいて日程調整をしたいと思います。

事務局からは以上２点でございます。

５　閉会

川連委員長　ありがとうございました。

皆様に協力をいただき円滑な議事を進めることができましたことに、副委員長ともども深く感謝を申し上げます。

これで第４回中原区区民会議を閉会いたします。ありがとうございました。

午後４時19分　　閉　会